

「親子のふれあいの大切さ」

幼児期における親との「ふれあい」はとても大切です。スマホやおもちゃに頼らず、子どもと目を合わせて話しかけたり、一緒に遊んだりといったコミュニケーションをとる中から、子どもは、親に愛されていることを実感するとともに、人の心の動きを知り、人が自分と違う考えをもっているというを理解します。そのことが、健全な発達や健やかな成長を促します。

今回は、子どもとの関わり方について、普段の子育てを振り返ってみましょう。

【関わり方①】

□子どものよいところをほめたり、達成できたことを一緒に喜んだりしていますか。

- 「認める」とは、子どもがしていること、したことを「よくやった、それでいい」と肯定的に見ることです。
- 親に認められている子は自分に自信をもち、何事にも意欲的に取り組みます。また、親が考えている善悪の基準を分かっていくので良心が育ちます。



《ポイント》

- ★どんな子にも足りないところがありますが、それ以上によいところをたくさんもっています。お子さんのよいところに目を向け、認めてあげましょう。
- ★認めたことを肯定的な言葉や、喜びの言葉で伝えてください。また、うなずいたり、ほほえんだりなどの表情やジェスチャーで認めていることを伝えましょう。

【関わり方②】

□普段から、自分は子どもの味方であることを言葉や態度で伝えていきますか。

- 身の危険や病気から守るほかに、つらいことや、くやしいことがあったとき、その気持ちを分かちあうことも「守る」ことです。
- 親から守られていると実感している子は心が安定し、遊びにも勉強にも集中して取り組みます。



《ポイント》

- ★親はいつでも子どもの味方であることを、言葉と態度で伝え示して、親から守られているという実感をもたせてあげましょう。
- ★子どもが友だちからいじめられ、SOS（助け）を発しているときは、何はさておき、子どもの気持ちを確かめながら、子どもを守ってあげてください。

【関わり方③】

□子どもが悪いことをしたときは、してはいけない理由が分かるように話していますか。

- 「しかる」とは、自分に危ないことはしない、人がいやがることはしない、社会で許されないことはしない、ということを教えることです。
- しかられても子どもは親を嫌ったりはしません。しかられたとき、子どもは、自分の行いを見つめ直し、自分自身で考えていくようになります。



《ポイント》

- ★悪いことは悪いと教えることは親の義務であり、責任でもあります。戸惑うことなく、毅然としてしかってください。
 - ★してはいけない行為だけを、「それはいけない」と短い言葉でしかってください。そして、その理由を分からせてください。
- 体罰（叩く、激しい言葉で叱責するなど）は、絶対にしてはいけません。